

ひきこもり等就労困難者のための 中間就労の場づくり事業

宮城県保健福祉部障害福祉課
地域生活支援班 主事 富田紘平

本日の流れ

- 1 事業開始の背景・経緯
- 2 事業設計
- 3 事業概要
- 4 事業実績
- 5 事業効果
- 6 まとめ・考察



1 事業開始の背景・経緯

1 事業開始の背景・経緯

- ・ 様々な要因により、働きづらさを抱える人たち（ひきこもり、ニート、生活困窮者、刑余者、指定外難病、LGBTQ等）が国内で約600万人と推計※1されている。
- ・ 特に、広義ひきこもり※2については、国の調査から本県の人口比で算出すると、県内に約27,800人いると推計※3される。

R4実施	ひきこもりの割合	全国推計数	宮城県推計数
広義ひきこもり (満15～39歳)	2.05%	約61万9,000人	約12,300人
広義ひきこもり (満40～64歳)	2.02%	約83万9,000人	約15,500人
合計	-	約145万8,000人	<u>約27,800人</u>

※1：公益財団法人日本財団の統計資料参照 (<https://work-diversity.com/>)

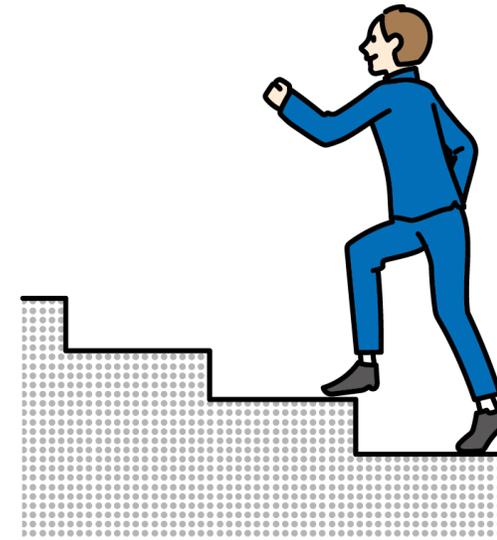
※2：狭義ひきこもり：様々な要因の結果として社会的参加（義務教育を含む修学、非常勤を含む就労、家庭外での交遊など）を回避し、原則的には6か月以上にわたって概ね家庭にとどまり続けている状態（病気・妊娠出産・主婦等を除く）

広義ひきこもり：狭義のひきこもりに、趣味の用事のととき外出をしている状態を加える（ニート含む）

※3：「こども・若者の意識と生活に関する調査報告書」参照（R5.3内閣府公表）

1 事業開始の背景・経緯

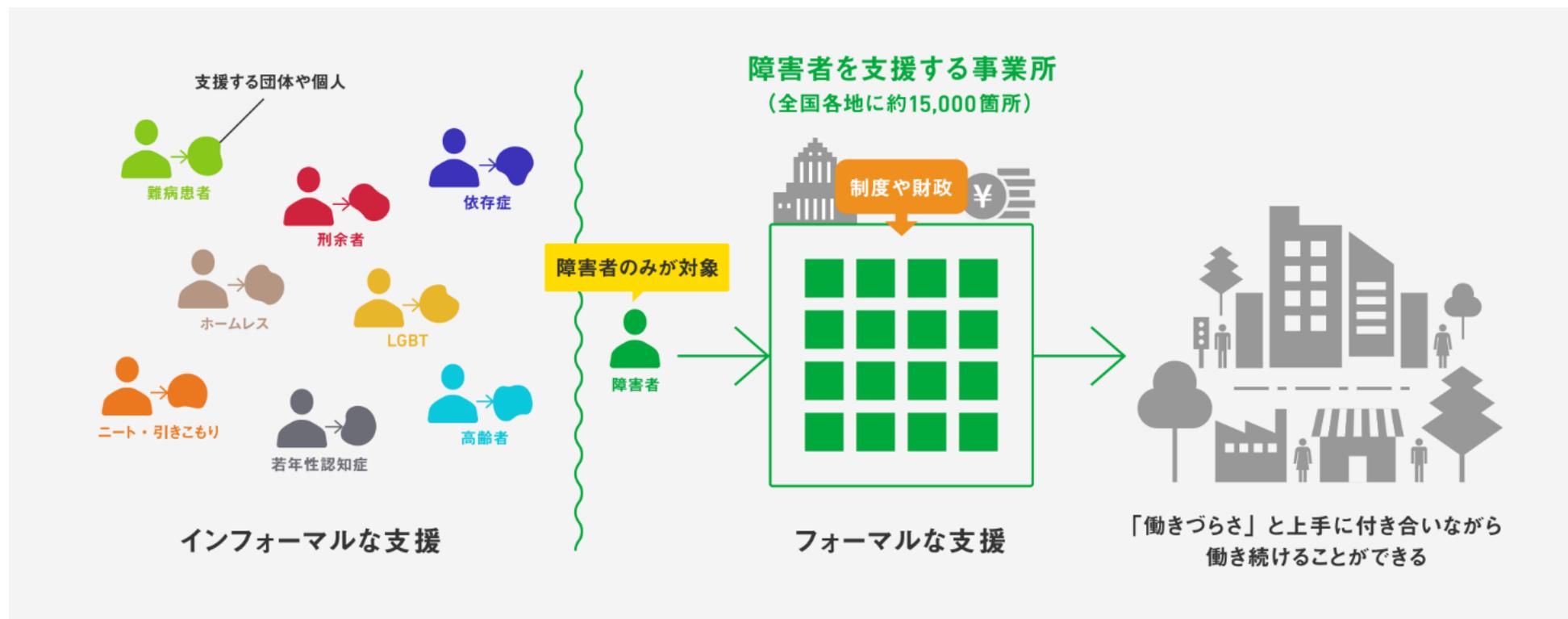
- 様々な要因により、就労困難となっている「働きづらさ」を抱える人々は、既存の支援制度の狭間にあり、十分な支援が行き届いていない状況にある。
- そのような状況を受け、日本財団では令和4年度から各自治体と連携した「WORK! DIVERSITYプロジェクト」を開始し、「働きづらさ」を抱える人々への支援を開始した。



1 事業開始の背景・経緯

「WORK! DIVERSITYプロジェクト」とは・・・

NOW | 現在すでにある支援体制 ～ 「障害者」 支援のインフラ整備が充実 ～

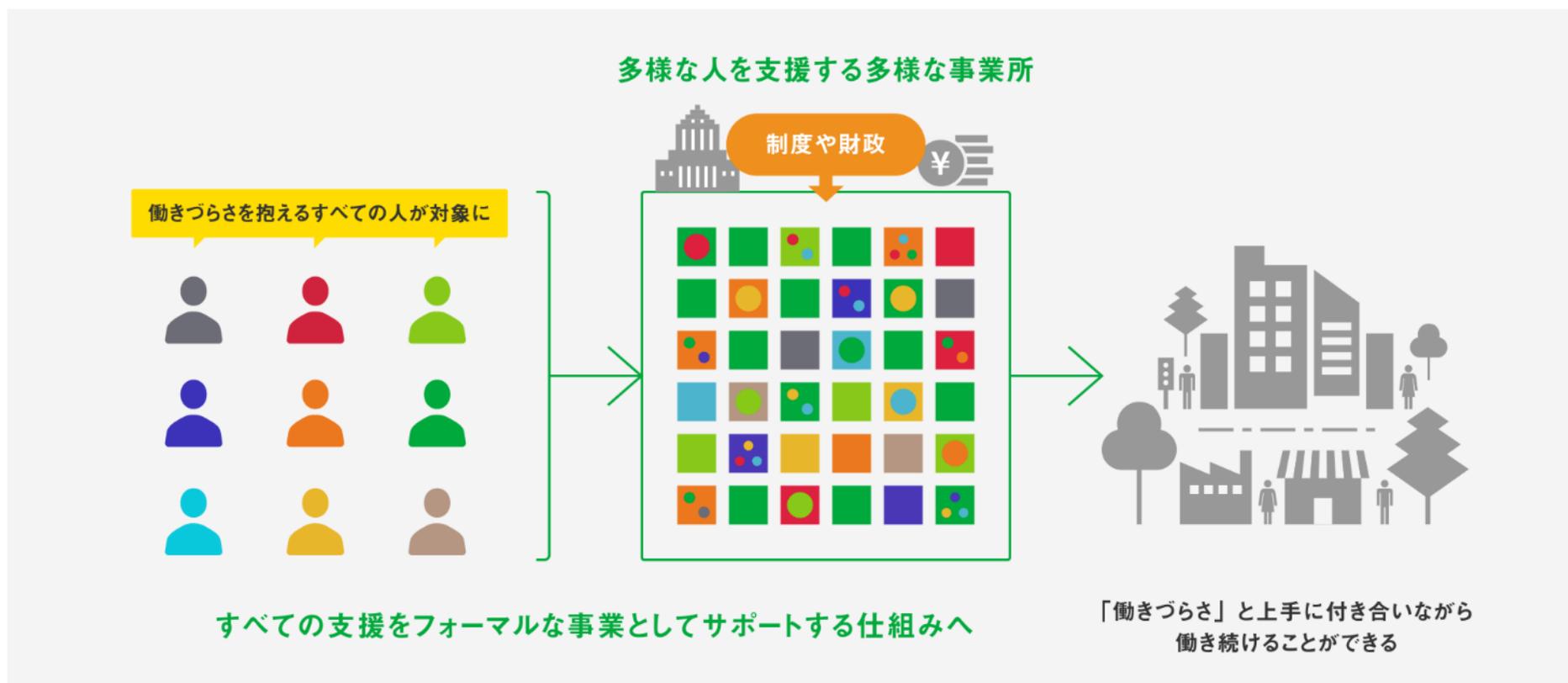


参照：日本財団HP (<https://work-diversity.com/>)

1 事業開始の背景・経緯

「WORK! DIVERSITYプロジェクト」とは・・・

FUTURE | 私たちがめざす支援体制 ～ NOWを活用・拡張・進化～



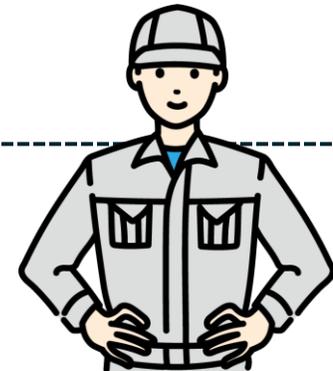
参照：日本財団HP (<https://work-diversity.com/>)

1 事業開始の背景・経緯

- ・ 本県も、令和6年度から本プロジェクトに参加した。
- ・ 主に増加する「ひきこもり」をメインターゲットとした、「ひきこもり等就労困難者のための中間就労の場づくり事業」をモデル的に開始した。

【中間的就労】とは・・・

一般企業での就労（一般就労）がすぐには難しい人に対し、支援付きで働く経験等を積むことで、将来的な一般就労を目指すもの。



1 事業開始の背景・経緯

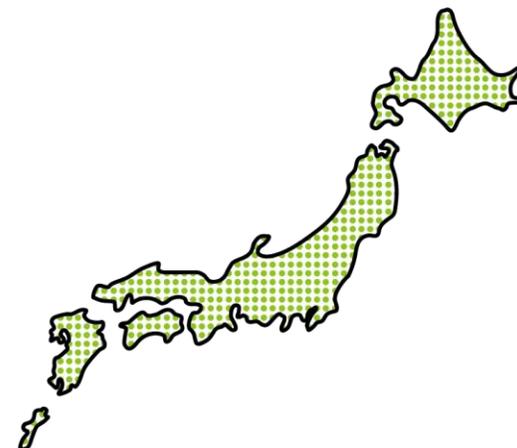
- ・本事業では、就労訓練及び支援の場として、「障害者就労支援施設（事業所）」を活用し、就労困難者の一般就労移行を目指す。
- ・なお、就労困難者は、その背景に複合的な要因があるケースが想定されるため、既存リソースである事業所の高い支援力が有効に活用できると見込まれる。
- ・モデル事業の実施により、ひきこもり等就労困難者が新たに支援を受け、一般就労移行することができれば、昨今の労働力不足の解消や社会保障費の抑制を目指すことが可能となる。

【モデル事業実施自治体】

令和4年度～：千葉県、福岡県、岐阜市

令和5年度～：豊田市、

令和6年度～：名古屋市、**宮城県** 計6自治体がモデル的に事業を実施

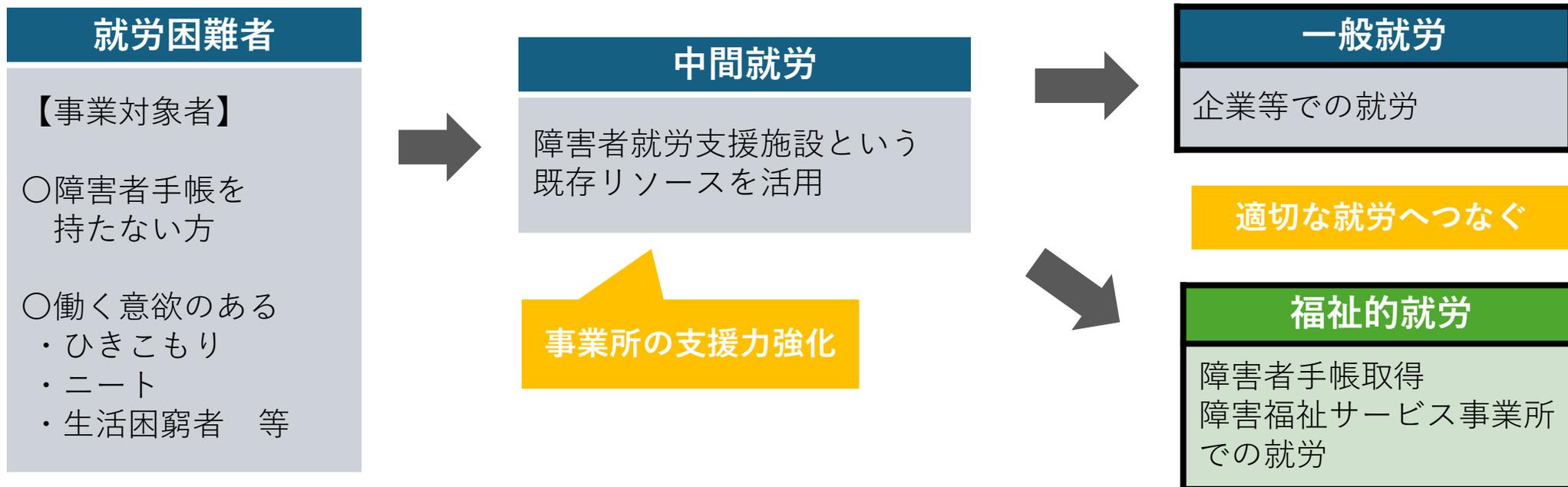


2 事業設計

2 事業設計

・事業の効果及び目的

- ⇒ 就労困難者の特性に合わせて、一般就労または福祉的就労につなげることができる。
- ⇒ 障害者のみならず、就労困難者を受け入れることで、障害福祉サービス事業所の支援力強化が期待できる。



2 事業設計

・ 想定課題

①利用者 と 事業所の マッチング

⇒ 調整機能を有する支援センター（マネジメントセンター）
を設置

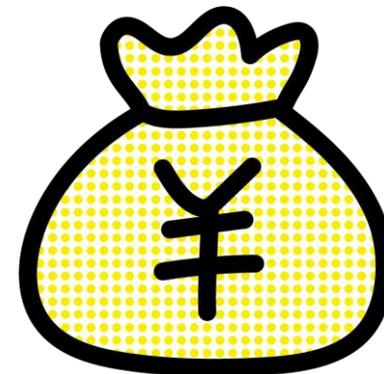
- ・ お問い合わせ（相談）対応
- ・ 利用者のアセスメント
- ・ 利用者を受け入れる事業所の確保
- ・ 利用者 と 事業所 と の マッチング 等



2 事業設計

- 想定課題

- ②協力する事業所のインセンティブ



- ⇒通常の障害福祉サービスの給付費等を参照し、利用者を受け入れた際の協力金（謝金）の設定
 - ⇒月ごとに受け入れた利用者数に応じた金額を、マネジメントセンターから事業所へお支払い

3 事業概要

3 事業概要

- ・ ひきこもり等就労困難者に対し、支援・サポート体制が充実している障害者総合支援法における障害者就労施設（就労移行支援、就労継続支援A・B型事業所）で、中間的就労の場を提供し、一般就労移行に向けた支援を行う。
- ・ 新たな就労支援体制の構築を目指し、そのモデルとなり得るシステム、手法を確立するため、モデル事業として実施。



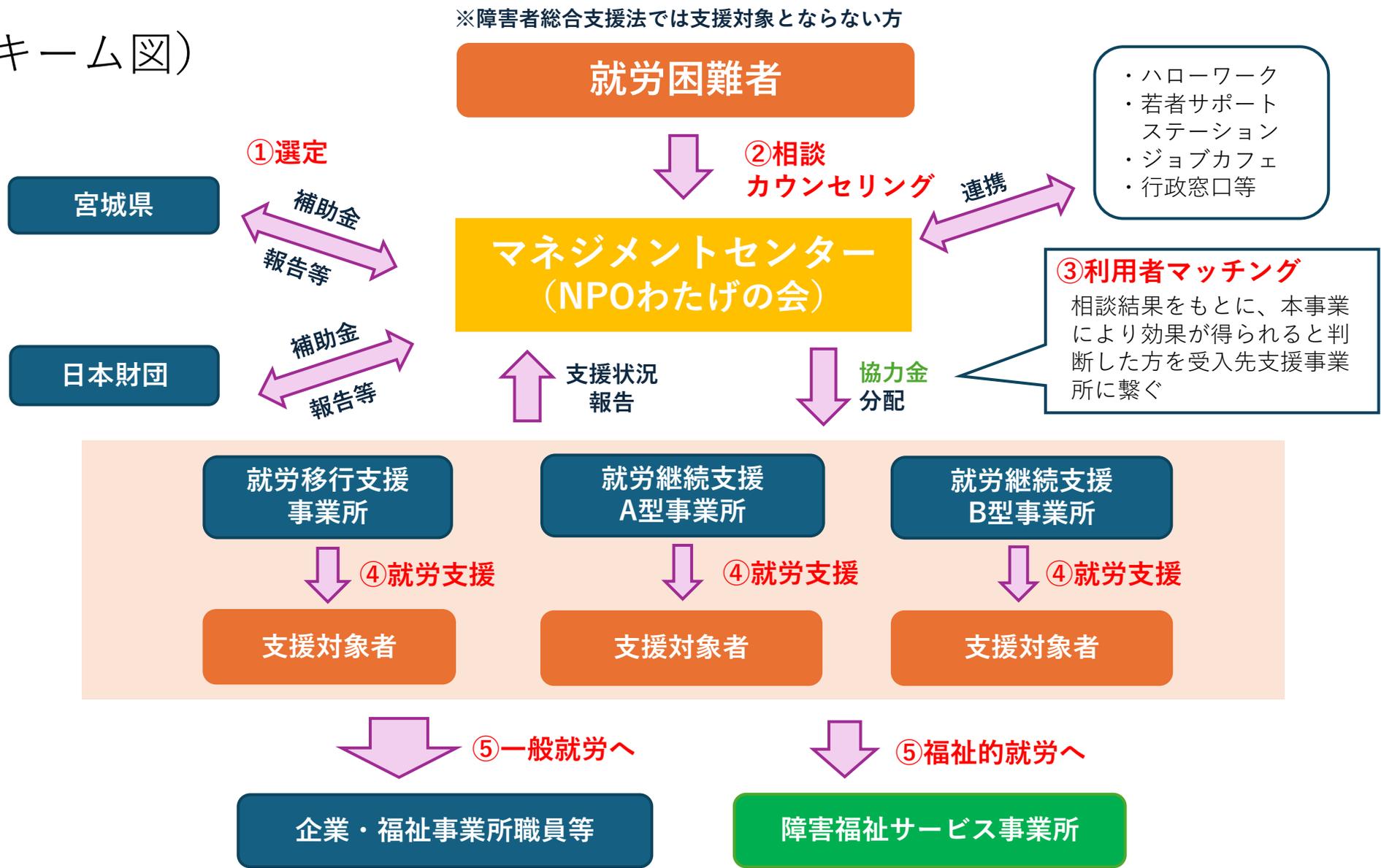
3 事業概要

- ・ **実施方法**：補助金（宮城県）、事業費助成（日本財団）
- ・ **実施団体**：特定非営利活動法人わたげの会
- ・ **実施期間**：令和6年度～令和8年度（予定）
- ・ **予 算**：47,500千円（令和7年度）
※財源割合は日本財団80%、県20%
- ・ **内 容**：
 - ：（1）マネジメントセンターの運営
 - ：（2）障害者就労支援施設での就労訓練
 - ：（3）広報活動
 - ：（4）ネットワークづくり



3 事業概要

(スキーム図)



3 事業概要

・マネジメントセンターの役割

- 就労困難者からの利用相談受付、マッチング支援、訓練中のサポート
- 事業所への協力金支給
- 事業周知、利用者確保に向けた広報活動
HPの作成、チラシ・ポスターを各支援機関、障害者就労施設に配布
- ネットワークづくり
各支援機関、事業所等が参加する地域ネットワーク会議を開催
相互連携・支援力強化を図り、庁内関係部局へ情報共有・事業成果を報告

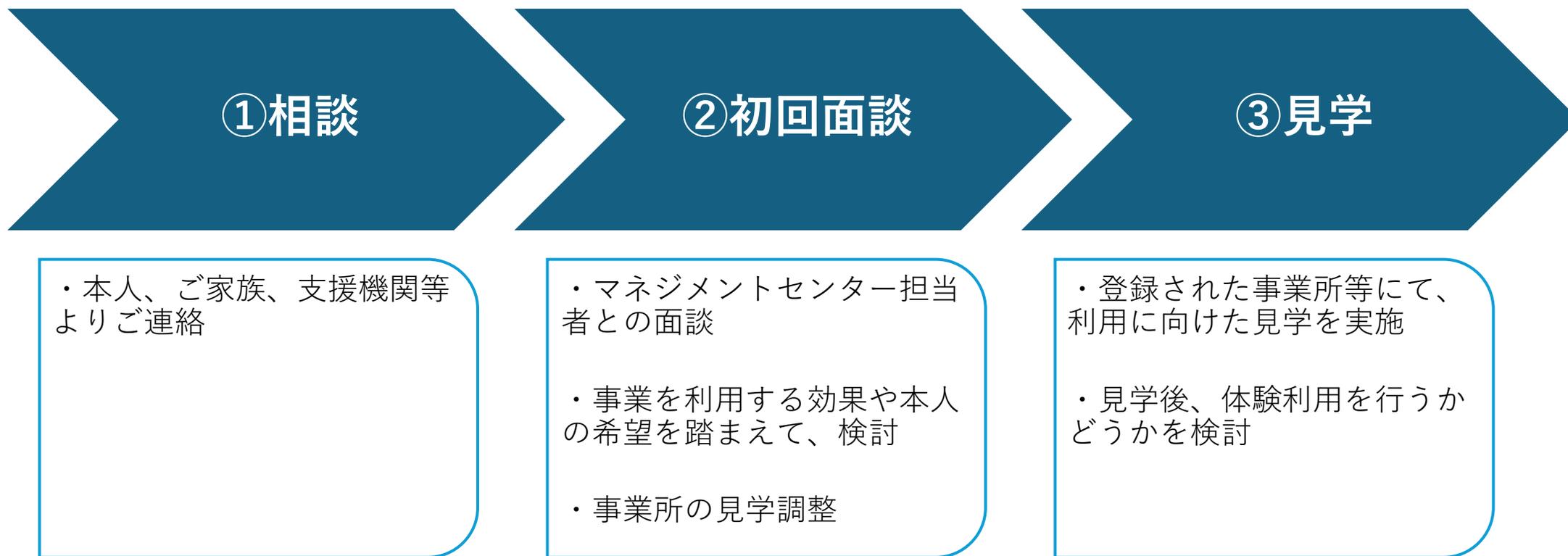
3 事業概要

・ 障害者就労支援施設（事業所）の役割

- マネジメントセンターからの連絡を受け、利用者の受入検討
- 利用希望がある場合は、見学等の受け入れ
- 利用者の受け入れ、一般就労移行に向けた訓練実施
（コミュニケーショントレーニング、PCスキルトレーニング、ビジネスマナー、
実習、職業適性の把握等）
- マネジメントセンターへの実績報告
- 利用者とのマネジメントセンターとの3者での情報共有（定期面談）
※KPSビジュアルライズツールを使用
- 利用者の一般就労移行支援（就活サポート）

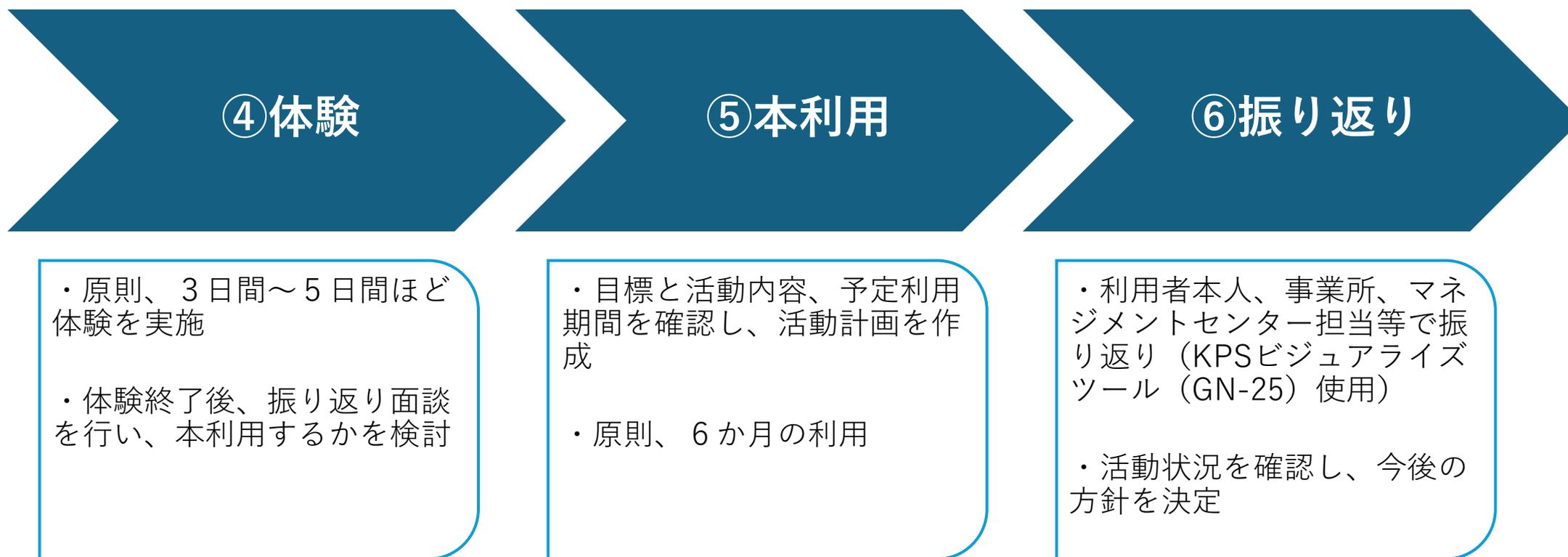
3 事業概要

・利用フロー



3 事業概要

・利用フロー



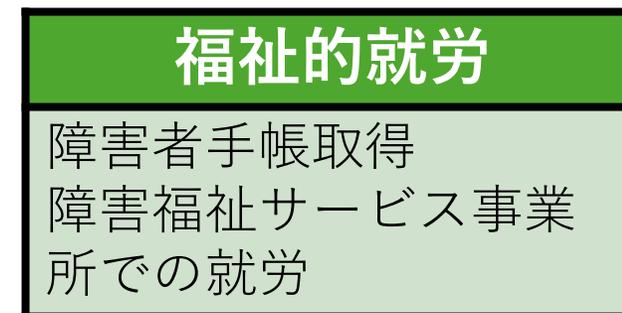
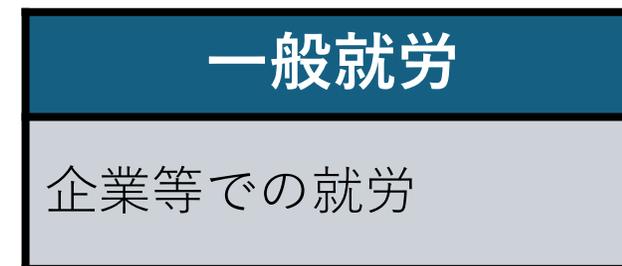
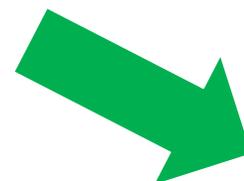
3 事業概要

・利用フロー



・就職が決まるなど、進路が決まった場合は終了

・利用期間満了前であっても、「自分なりのキャリアプランができた」等、利用希望がなくなった場合は終了



3 事業概要

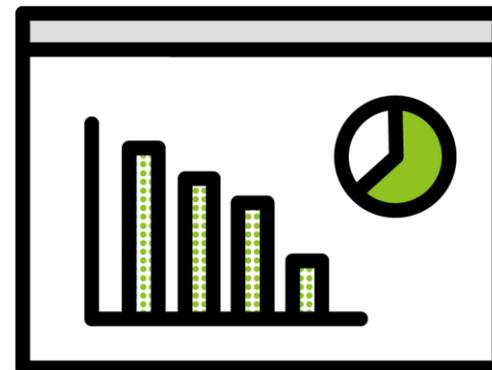
- 数値目標

- 利用者数：20名/年度あたり

事業所での利用者の「体験」からカウント

- 就労移行者数：10名/年度あたり

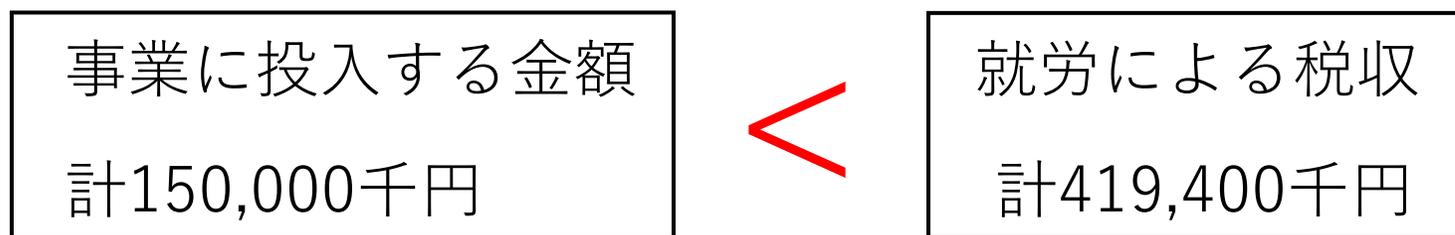
一般就労移行または福祉的就労、どちらもカウント



3 事業概要

・費用対効果

⇒本事業3年間で目指す就労者30名が、30年間働いた場合の税収は、以下のとおりであり、3年間の事業費約1億5千万円に対し、大きな効果が見込まれるもの。



仮定：本県の事業実績見込みより、年間利用者20名のうち10名、3か年で30名が就職し、30年間（利用実績平均約35歳）就労を継続する。

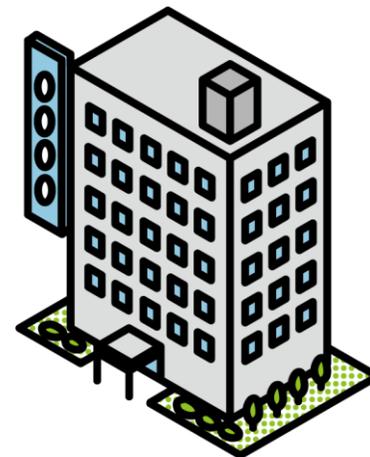
条件：給与所得者の平均給与4,600千円/年〈R5民間給与実態統計調査〉、所得税179千円/年、住民税287千円/年〈基礎控除以外の控除無し〉

税収：466千円/年×30年×30人=419,400千円

3 事業概要

- ・費用対効果

⇒定量化できないため検証不可であるが、本人、家族・周りの人々の幸福度の向上、家族等の可処分時間の増加、現在および将来的な生活保護費等福祉的支出の減少、働く人の多様化による企業全体の活性化や新しい市場の創出等が期待される。



3 事業概要

- ・ KPSビジュアルライズツール (GN-25) とは・・・



「KPSビジュアルライズ
ツール」で
利用者の変化を
「見える化」しませんか？

- ☑ 利用者自身が
評価を実施
- ☑ 支援の蓄積が可能
- ☑ 完全無料
登録だけで使える

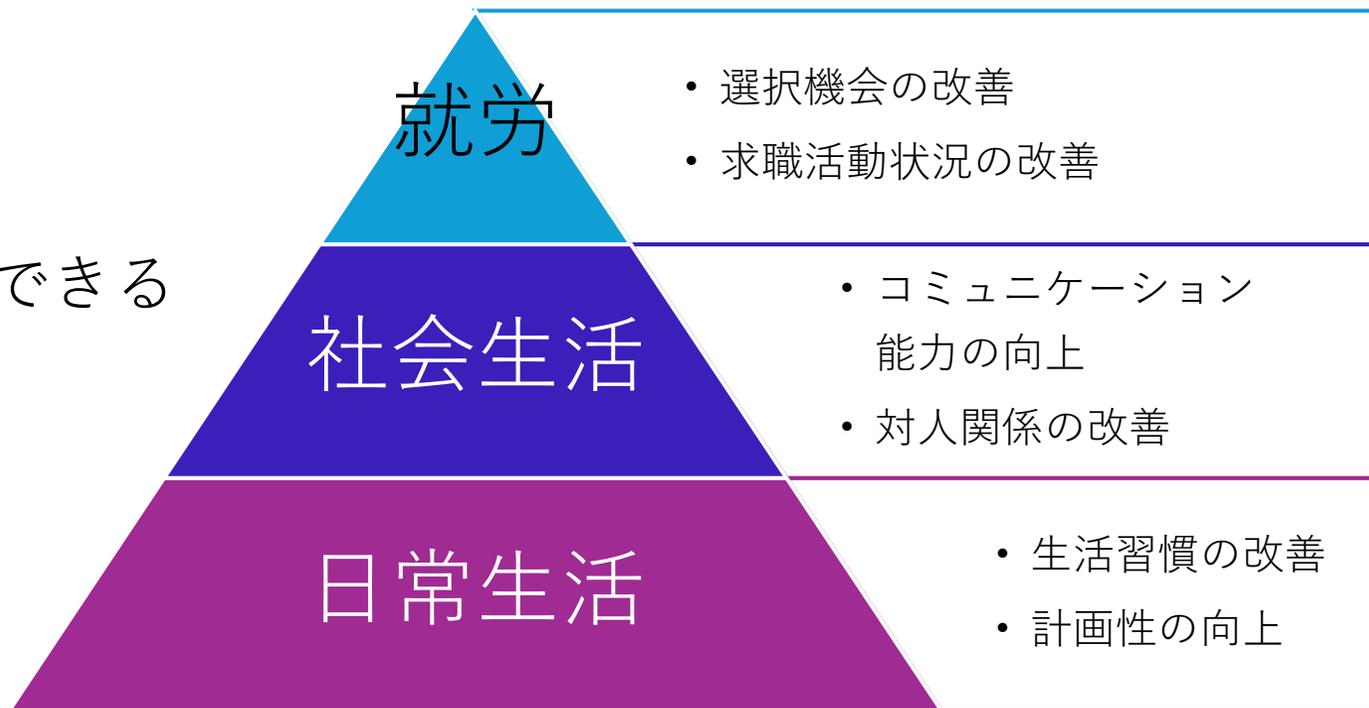
※一般社団法人京都自立就労サポートセンター「KPSビジュアルライズツール」公式WEBサイトより
<https://www.kyoto-ps.com/vt/>

3 事業概要

・ KPSビジュアルライズツール（GN-25）とは・・・

【GN-25評価シートの特徴】

- ⇒ 自己認識の課題が分かる
- ⇒ 何が不足しているかを可視化できる
- ⇒ それぞれの項目について、現在のレベルを判断できる



参照：新指標について-KPSビジュアルライズツール
<https://www.kyoto-ps.com/vt/new-indicator/> (2025/2/20)

図1 GN-25評価シートの3つの評価の分類とそれを構成する評価の詳細（一部を抜粋）

3 事業概要

・ KPS ビジューアライズ ツールとは・・・

GN-25 評価シート

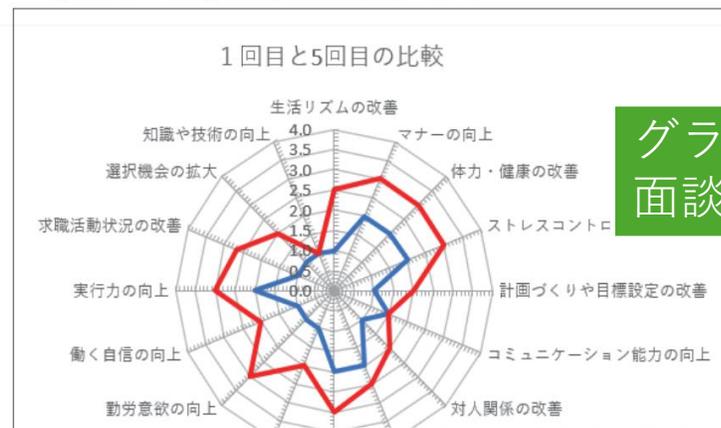
3つの評価の分類に分け、それらを10の評価の詳細、さらに16の評価の指標に分け、25の設問項目で構成。

※支援員と本人がそれぞれ回答を行う。



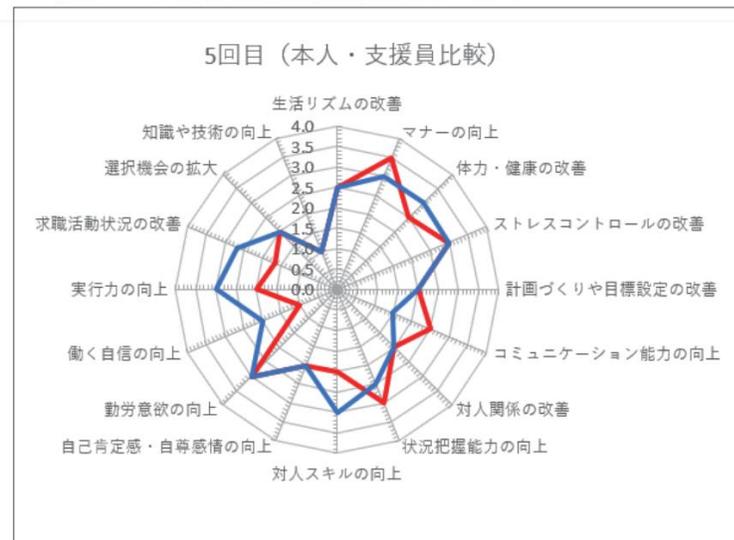
GN-25 評価シート				
氏名	記入日	年月日	回目	
状況を選択 【 就労状況 : <input type="checkbox"/> 就労中 <input type="checkbox"/> 無職 】	支援員名			
	4: そう思う	3: だいたい そう思う	2: あまりそ う思わない	1: まったく そう思わない
1. 就寝、起床時間がばらばらである	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
2. 規則正しく食事をとっている	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
3. 約束の時間を守り行動することができる	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
4. その場に応じた身だしなみができている	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
5. 健康状態は良好である	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
6. プログラムに休まず参加することができる	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
7. 感情のコントロールができており、イライラしたり落ち込んだりせず安定した気持ちで生活することができる	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

* (GN-25) 本人評価グラフ



グラフ化して
面談で活用

* (GN-25) 支援員評価グラフ



4 事業実績

4 事業実績

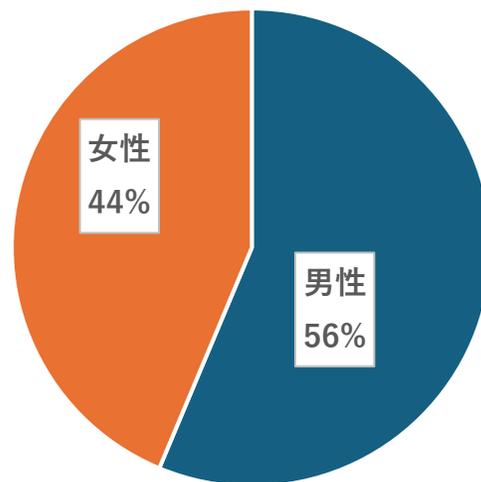
・相談者数

R6年度：57人、R7年度：64人 合計：121人

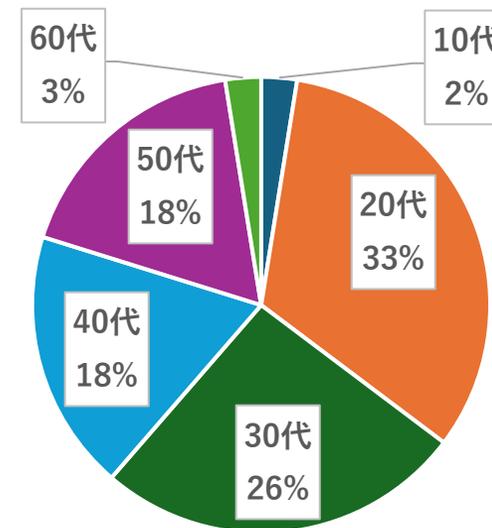
性別	
男性	67人
女性	52人

年代	
10代	3人
20代	39人
30代	31人
40代	23人
50代	20人
60代	3人

相談者男女比



相談者年代比



※R7年度実績は12月末時点
※個人情報取扱同意ありの属性のみ計上

4 事業実績

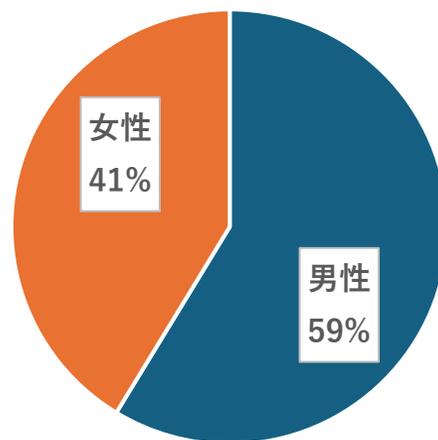
・利用者数

R6年度：24人、R7年度：22人、合計：46人

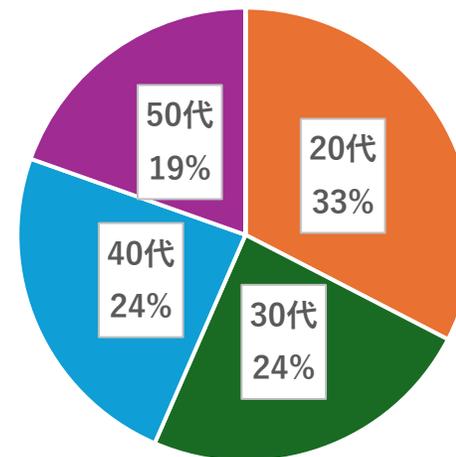
性別	
男性	27人
女性	19人

年代	
10代	0人
20代	15人
30代	11人
40代	11人
50代	9人
60代	0人

利用者男女比



利用者年代比



4 事業実績

・就労移行者数

R6年度：2人（一般就労：1人、福祉的就労：1人）

R7年度：15人（一般就労：10人、福祉的就労：5人）

合計：17人（一般就労：11人、福祉的就労：6人）

※進路決定者

R6年度：1人（就労移行支援事業所）

R7年度：3人（就労移行支援事業所）

合計：4人（就労移行支援事業所）



4 事業実績

・協力事業所数

R6年度：35事業所、R7年度：17事業所、合計：52事業所

	就労移行支援	A型	B型	合計
仙南圏域	1	0	3	4
仙台圏域	16	6	17	39
大崎圏域	3	0	2	5
栗原圏域	1	0	0	1
石巻圏域	1	1	0	2
登米圏域	1	0	0	1
気仙沼圏域	0	0	0	0
合計	23	7	22	52

4 事業実績

・ 広報関係

ホームページ、チラシ等の作成
県政だよりや河北ウィークリーに記事掲載
Google検索広告等を実施
その他、SNSを活用した事業周知等



あなたらしい働き方 サポートします!

利用者の声

自分の選択を広げる

働くことへの不安
私は自分に自信がなかった。新しいことを始めるのは不安を感じやすい性格です。また、思った職業の求人もあるのかもしれない。その経験から、新しいことへの挑戦に挑戦し、就職活動に踏み出すことができました。

就職に際して
「就職に自信がなかった」という理由で、就職活動に自信がなかった。しかし、就職活動を通じて、自分の強みや得意分野を再発見することができた。また、就職活動を通じて、自分の強みや得意分野を再発見することができた。

仲間と学び、成長する日々

知見を得た支援機関で「らしくワークサポーター」を紹介してもらいました。そこで、就職活動をサポートする機会をいただきました。パソコンの操作や書類の書き方など、就職活動に必要なスキルを学ぶことができました。また、就職活動を通じて、自分の強みや得意分野を再発見することができた。

スキルを磨いて、働く力に

就職活動を通じて、自分の強みや得意分野を再発見することができた。また、就職活動を通じて、自分の強みや得意分野を再発見することができた。

あなたに寄り添う就業支援「らしくワークサポーター」

「らしくワークサポーター」は、働きづらさを感じている人が、自分らしい働き方ができるようサポートする就業支援窓口です。一人一人の状況に応じた、丁寧なサポートを行います。就職活動を通じて、自分の強みや得意分野を再発見することができた。

利用の流れ

まずは相談を受け付け、面接を行います。30分程度の就業支援相談ののちから、一人一人に合わせたサポートを行います。ご本人だけでなく、ご家族やご支援者の協力も、ぜひお力添えください。

お問い合わせ

らしくワークサポーター 022(17)241-7900 (平日 午前10時～午後5時)
022(2)112541

4 事業実績

・ネットワークづくり (R6)

【第1回】WORK! DIVERSITY モデル事業オンライン説明会

日 時：令和6年6月14日

出席者：8事業所

内 容：事業に協力する予定の事業所及び法人に対し、事業概要、事業実施の流れ、必要な事務手続き（使用する様式）等について説明、質疑応答等

【第2回】WORK! DIVERSITYモデル事業 ネットワーク会議

日 時：令和6年10月30日

出席者：13事業所、11支援機関、5企業・団体

内 容：事業概要及び実績報告、利用者の事例共有、利用者の訓練状況、インタビュー動画の視聴等

【第3回】WORK! DIVERSITYモデル事業 ネットワーク会議

日 時：令和7年2月25日

出席者：13事業所、14支援機関

内 容：事業概要及び実績報告、利用者からの声（本人登壇）、意見交換等



5 事業効果

5 事業効果

目標値に対する達成率

- ※目標値：利用者数 ⇒ 1年間で20名、3か年で計60名
令和7年度末時点で40名
- 就労移行者数 ⇒ 1年間で10名、3か年で計30名
令和7年度末時点で20名

	令和6年度	令和7年度	令和8年度	合計	達成率 (対R7年度末)
利用者数	24人	22人	—	46人	115%
就労移行者数	2人	15人	—	17人	85%

※令和7年12月末時点

5 事業効果

利用者の声①

一歩を踏み出す「今の状況をなんとか変えたい」という思いで、仙台市ひきこもり地域支援センターから紹介された「らしくワークサポーター」を利用しました。

まずは、定期的に事業所へ通う習慣ができたことや、職員や他の利用者と接する機会ができたことが、自分にとって大きな前進でした。

私のように、働くことに不安を感じている方や、就職活動の進め方が分からないという方に、ぜひ利用してほしいです。一人で悩まず、まずは相談してみてください。

5 事業効果

利用者の声②

悩みを相談した支援機関で「らしくワークサポーター」を紹介してもらいました。そこで、情報技術を学べる事業所を紹介してもらい、パソコンの資格取得に向けて取り組んだ結果、見事一発合格を果たしました。

事業所の見学や体験をしたときが、不安や緊張のピークでしたが、同じ事業所に通う仲間や支援員の皆さんに支えられ、心地良い疲労感を感じながら家路につく日々です。毎日の積み重ねが成功体験となり、自信につながっています。

5 事業効果

利用者の声③

地域若者サポートステーションの紹介で「らしくワークサポーター」を利用しました。これまで、パソコンスキルをはじめ、コミュニケーション力向上や職業スキルを磨くトレーニング、ビジネスマナーのセミナー受講などに取り組んできました。

外に出る機会が増え、人と話すことも多くなりました。

最初は働くことに不安を感じていましたが、さまざまな訓練を受けながら、就職に向けて頑張っています。

「らしくワークサポーター」の親切なサポートに感謝しています。

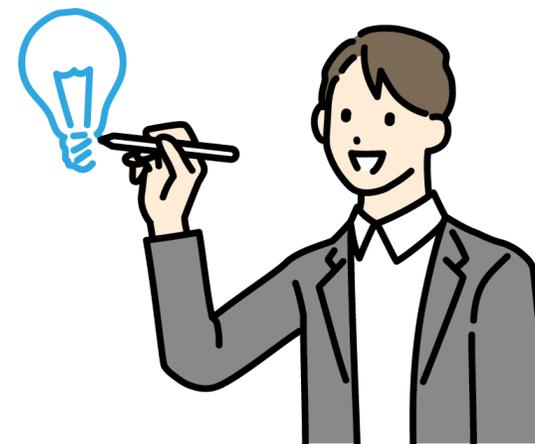
5 事業効果

・課題【事業対象者の明確化】

⇒事業利用の相談者が増加傾向にあり、県民への事業認知が深まっているが、本事業の利用対象外となる相談者も一定数増加しており、マネジメントセンターの負担が増加している。

・解決策

⇒広報等で本事業のスキームや対象者を分かりやすく表現し、ミスマッチを削減する。



5 事業効果

- ・課題【協力事業所の空白地域、圏域の偏り】

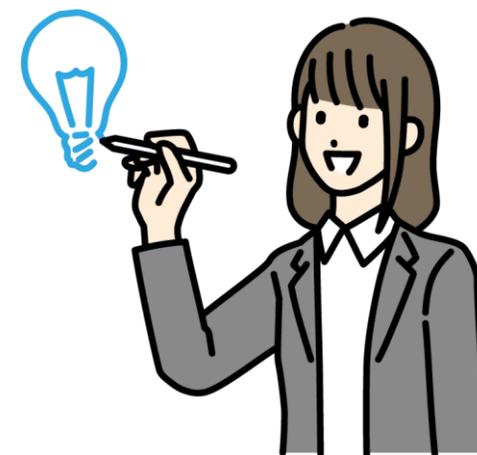
⇒気仙沼圏域には、利用者を受け入れる事業所がない。

⇒仙台圏域に事業所が集中している。

- ・解決策

⇒他圏域への利用リファーをし、利用者の受け入れを推進する。

⇒引き続き、事業所確保のための働きかけを行う。



6 まとめ・考察

6 まとめ・考察

- ・本事業は、一定数のニーズが確認されるとともに、事業実績も向上していることが確認されたため、引き続き支援を継続する。
- ・就労者移行数も増加傾向にあり、県内の労働力確保が見込まれるとともに、本人の生きがいや満足度の向上が図られたのではないかな。
- ・一方、事業費に占める協力金の割合が多く、主たる財源を日本財団からの助成金に頼っていることから、モデル事業から恒久的な制度化を目指し、日本財団とも連携し、国に制度化・事業化の要望を行っているところ。

〔 令和7年9月の全国知事会から国への要望項目に、「ひきこもり等就労困難者を対象とする新たな支援体制整備と必要な財源措置」について、本県が提案したところ、新たに追加された 〕

- ・今後は、モデル事業で得た知見を既存事業へフィードバックし、本県の就労困難者等への支援施策に活用したい。

